

福井試験地

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
福井試験地 主任
山瀬 孝一

はじめに

福井県大野市は、福井県の北東部に位置し、東と南は岐阜県と接している(図-1)。県で一番広い面積を誇る市であるが、その約9割を森林が占める。日本百名山である荒島岳をはじめ、四方を白山の支脈に囲まれた盆地である。山々に降った雨や雪が地中へしみ込み、湧き水として市の至る所でみられ、田畑を潤している。大野市民は湧き水を「清水」と呼ぶ。環境庁が選定する名水百選に選ばれた「御清水」、平成の名水百選に選ばれた「本願清水」が今もなお、こんこんと湧き続けている。市民、約3万5千人のうち約8割は上水道ではなく、地下水をそのまま生活用水として使っている。大野市は国土交通省により特別豪雪地帯に指定されている(国土交通省 2010)。市街地での過去30年の最深積雪の平均値は83センチ(気象庁ホームページ)。盆地特有の気候で、日格差が大きく、米の味はおいしい。自称特Aの味がする。

1 沿革

福井試験地は初代の土屋氏、平坦地で試験田を所有していた高橋氏、山間地で試験地を担った斉藤氏、その後、平坦地で試験地を担った尾嶋氏から引き継いで、山の斜面に試験田を所有する私で5代目である。



図-1 植調福井試験地の位置(地理院地図より)

2 試験地の概要

福井試験地は、標高884メートルの飯降山の東麓に位置している。我が家は、生活用水として、上水道でも地下水でもなく、山水を使っている。伝統的な棚田のイメージとは違うが、階段状に水田が作られているため、上に位置する農地からの湧水が、下に位置する田畑やビオトープから見られる。試験田が隣接するビオトープからも水が湧き、稲が花をつける頃、ホタルが舞う姿が見られる。山つきで、山おろしの風は強く、試験田に並べた鉄の足場が飛ばされてしまうため、固く縛り付けている。また、冬季は吹き返しもあり、市街地より積雪は多く、午後4時を過ぎると山影に入るため、雪解けも遅い。

飯降山山系からの湧き水が集まる赤根川(あかねがわ)の河岸段丘の上であり、河川より3メートル以上の高さがあるため、水害の恐れはほとんどない。土壌は粘土質で、減水深は0.5センチ/日、薬効が高く、薬害の発生しにくい土壌である。区画は長辺100メートル、短辺90メートルの台形型の圃場である。土地改良により大区画圃場にして25年が経過している。

3 発生する雑草草種

発生する草種は、主にヒエ、コナギであり、ホタルイは少々、オモダカ、ウリカワ、セリの発生はない。水稻は、イクヒカリを作付けしている。

4 作業

試験地の代かきは、2mハローを使用。代かき後、縦波板を、田植え前に田植え機を使い設置(図-2)。横波板は、田植え後に、手作業で入れている。田植えと波板入れは5月10日頃、家族に加え、知り合いにアルバイトをお願いし実施している。

灌水はパイプラインで1区画ごとに入水可能。ため池には他の圃場からの排水が入るため、無処理区はパイプライン



図-2 田植え機を用いた縦波板入れ作業とシバザクラ



図-3 筆者とシバザクラ

を使わず、バケツで山水を入れている。

試験地には地面から 30 センチ程度上にあげた足場板で、観察用通路を整備している。試験地は自宅の前にあるため、日に 2 回は巡回観察している。

農地、作業舎、農機具、すべて私個人の所有であり、普及員として長年勤務していたため、米の生産技術は身につけているが、75 歳を過ぎ、体力・知力に衰えを感じながらの作業、運営である。調査にあたり多くの助言をしてくれる妻にこの場を借りて謝辞を申し上げたい。

5 試験地を取り巻く社会情勢

福井試験地のある地域では、少子化が進み、小中学校の統合が行われている。高齢化も深刻で、自宅に住まわず、養護施設に住まう者も増加している。若者でも住民票はあるが実際に住んでいない家も見られ、高齢化と農家離れが進んでいる。担い手不足を、GPS を使用したトラクター 100 P S や、ドローンによる除草剤散布、走行アシスト田植機が補っている。

ここ 3 年は、米価下落、生産資材や燃料の高騰、増税により、10 アールあたり人件費を除き 4 万円の支出増が続いている。

農家には厳しい状況の中、稚苗の供給、カントリーの利用、生産組合、これらが普及してきており、苗づくりから乾燥までできる米農家は日本にいったいどれくらい残っているのだろうか、と日本の伝統的農法の次世代への継承について不安を感じる。

6 観光のご案内

北陸新幹線が 2024 年 3 月 16 日、金沢から福井県敦賀駅まで延伸した。東京、長野方面から北陸新幹線 1 本で福井駅まで来ることができるようになった。福井駅から大野市までの公共交通は、従来通り、バスまたは電車のどちらかが 1 時間に 1 本走っている。しかし、不便であるため、福井試験地へお越しくださる方は、福井市でレンタカーを借りることをおすすめする。見どころは、「天空の城」である。11 月から 3 月の湿度が高く、放射冷却が起こるような寒暖差が大きい日の朝には、大野盆地内に霧が溜まる。すると、小高い丘の上に立つ大野城が、まるで雲の上に浮かんでいるように見えるのである。試験地からも天空ではないが、日中、大野城を遠くに見ることはできる。試験地周辺では、4 月下旬から 5 月の連休にかけて、畦に植栽されたシバザクラが開花し、畦がピンク色に染まり見事である。飯降山には新緑が萌え、ピンクと若草色のコントラストが美しい。そして、水田も景観の大切な一部である。今年は 4 月 20 日が満開であった (図-3)。

隣の勝山市には、世界的に有名な福井県立恐竜博物館がある。入場料は 1000 円。見学には 1 時間は必要。また、曹洞宗大本山永平寺も近い。入場料は 700 円。こちらも、見学には 1 時間必要。

参考文献

国土交通省 2010. <https://www.mlit.go.jp/crd/chisei/fukui.html>, 最終確認 2024/4/23.

気象庁ホームページ . https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml_amd_ym.php?prec_no=57&block_no=0573&year=&month=&day=&view=p1, 最終確認 2024/4/23.